

1組	チーム	神戸FC	箕谷C	東灘C	蓮池C	成徳C	勝点	得失点差
1	神戸FC・C		○ 5-1	○ 9-0	○ 14-0	○ 6-0	8	33
2	箕谷C	● 1-5		○ 2-1	○ 2-0	○ 2-0	6	1
3	東灘C	● 0-9	● 1-2		△ 1-1	○ 3-0	3	-7
4	蓮池C	● 0-14	● 0-2	△ 1-1		○ 2-1	3	-15
5	成徳C	● 0-6	● 0-2	● 0-3	● 1-2		0	-12

2組	チーム	鶴越C	高倉台E	多井畑D	桜の宮B	千歳C	勝点	得失点差
1	鶴越C		○ 5-0	○ 2-0	○ 4-1	○ 4-0	8	14
2	高倉台E	● 0-5		○ 2-0	○ 1-0	○ 4-1	6	1
3	多井畑D	● 0-2	● 0-2		○ 1-0	○ 3-0	4	0
4	桜の宮B	● 1-4	● 0-1	● 0-1		○ 3-1	2	-3
5	千歳C	● 0-4	● 1-4	● 0-3	● 1-3		0	-12

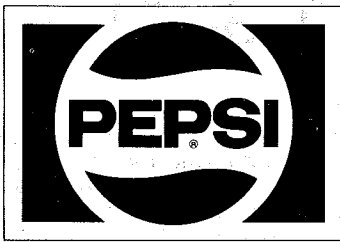
3組	チーム	成徳B	ひよどり台B	神戸FC・D	YMCA・B	鶴越D	勝点	得失点差
1	成徳B		○ 3-0	○ 9-0	○ 7-0	○ 11-0	8	30
2	ひよどり台B	● 0-3		○ 4-0	○ 3-0	○ 2-0	6	6
3	神戸FC・D	● 0-9	● 0-4		○ 2-0	○ 2-1	4	-10
4	YMCA・B	● 0-7	● 0-3	● 0-2		○ 2-1	2	-11
5	鶴越D	● 0-11	● 0-2	● 1-2	● 1-2		0	-15

各組の順位決定

神戸市少年リーグ2部 前期を終える

神戸市少年リーグ2部（小学男子4年生年齢以下）は9月17日、前期のすべての試合を終えた。

15チームが3組に分かれて、各組で1回総



当たりのリーグ戦を行った結果、神戸FC・C、鶴越C、成徳Bが1位となり、各組2位の箕谷C、高倉台E、ひよどり台Bとともに後期A組に進み、玉井杯を争う。今年の2部の選手は、競技規則を十分に理解していたため、例年と比べても試合内容が高く、また個々の選手のレベルも向上しており、これからの成長が大いに注目される。

なお、後期は10月2日の神戸FC・Dと桜の宮Bの試合で再開した。

2部リーグ後期の組分け

A組 神戸FC・C、鶴越C、成徳B、箕谷C、高倉台E、ひよどり台B

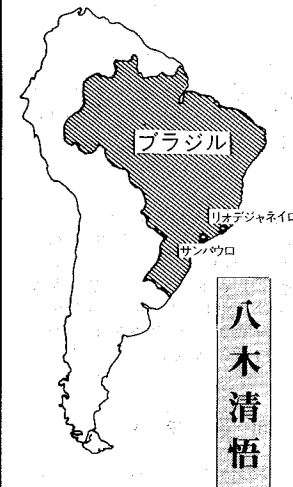
B組 東灘C、多井畑D、神戸FC・D、蓮池C、桜の宮B、YMCA・B
C組 成徳C、千歳C、鶴越D



蓮池C戦でボレーシュートを決める神戸FCの和田選手（9月9日、御崎少年グラウンド）

移住70周年記念

ブラジル遠征記



八木清悟

ぼくはこの夏、サッカーの本場ブラジルでプレーする機会に恵まれた。これは清水FC（清水市選抜）の遠征に同行が許されたもので、清水市以外の選手は広島の人とぼくの3人であった。

7月下旬によりりランドで行われた日本協会トレーニングセンターに参加した後、そこから清水の選手といっしょに清水に戻り、8月1日から3日間、ブラジル遠征チームの合宿に入った。はじめはブラジルへ行けるうれしさと、ぼくでもやれるかなという不安とで複雑な気持ちで参加した。この合宿はみんな元気に終え、ぼくは準備のため一度神戸へ帰った。7日の早朝、清水市の集合場所へ行くと、みんな日の丸を胸につけたブレザーを着ていた。清水市長などのあいさつがあり、結団式を終えバスに乗って成田空

港へ向かった。

日本を飛びたつて12時間、ニューヨークに着いた。そこからまた10時間して飛行機はリオへ。そして目的地のサンパウロに到着。宿舎についてさっそく軽いトレーニングをして、翌日（9日）の試合にそなえた。

第1戦のピリノーバーには6-0で完勝。

ぼくでもやれた！

サントスなど相手に……

ぼくも後半左バックで出場し、まずまずのできだった。ブラジルの選手は、予想どおりボールタッチが柔らかいが、意外にパスを通すプレーが多く、スライディングがうまい。

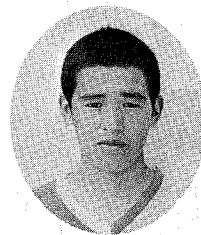
10日の第2戦は、プロの前座試合で12万人の観衆が見守る中パルメイラスと戦った。これも2-1で勝ったが、すべてに日本との差をみせつけられた。試合が終わったあとプロの試合を観戦、日本とは数段の差があるようだ。11日、サントスにあるペレの事務所を訪れたが、残念ながらペレはいなかった。その日は4時からサントスFCと戦い2-0で勝った。このころから体調をくずし、健康管理に大変苦労した。第4戦のナショナルとの試合にも勝ち、4連勝。ナショナルチームの選手は体格はりっぱだったが、スピードはぼくたちとあまり差がないように思えた。13日のガラニイに0-1で敗れた。試合のあと、5月に神戸にも来たことのあるパルメイラスとガラニイのプロチームによる決勝戦を見た。ガラニイのスピードプレーにびっくりした。そのあと、ぼくたち中学3年チームは、第6戦に敗れ、7戦でサンパウロに勝って5勝2敗の成績に終わった。試合をやってみた感想としては、相手のスピードには十分ついていった。ただ、反則すれすれのプレーが多く、

それだけブラジルのサッカーはレベルが高いのだと思った。それにしてもコンディショニングには苦労した。外国の食事に不慣れのせい、ぼくの好き嫌いもあって食べられず、あっという間に4キロやせた。また、ふろまきのぼくには、シャワーだけの生活にもまいった。

ところで、ブラジルの選手は1日に8時間近くもボールと遊んでいると聞き、ぼくもまだまだボールにさわるのが少ないのだなあと強く感じた。これは清水と神戸の選手と比べた場合にも同じことがいえると思う。また観衆にしても、10万人が入るのはめずらしくなく、一番大きいスタジアムではなんと20万人も収容するのがあり、規模の大きさに驚いた。

今回の遠征は日本人のブラジル移住70周年を記念して実現したものだが、日系の人たちが「日本チームがここまで勝つとは思わなかった。われわれも鼻が高い」と祝福してくださり、ぼくたちもうれしかった。

最後に、今回の遠征に際し、激励やご援助をいただき、ありがとうございました。（やぎしんご。雲雀丘中3年。神戸FC所属）



個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として50円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。
〒657 神戸市灘区上野通6丁目3-12 加藤 正信 ☎078 (861) 3100
なお、数人分をまとめて申し込まれる場合は、郵送料の割引がありますのでご連絡ください。



神戸のサッカー

1978 10月号

発行所 神戸市サッカー協会
神戸市北区有野台7丁目16-6
〒651-13 ☎(078)981-5867
発行人および編集人 加藤 正信
神戸市灘区上野通6丁目3-12
〒657 ☎(078)861-3100

毎月1回10日発行 購読料1部20円



高校選手権

あの興奮

昨年度の大会の決勝、御影工一明石南、御影工の猛攻を見事なヘットでクリアする明石南のバック（11月23日、神戸中央球技場）

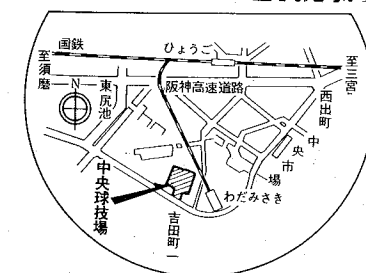
史上最高 131校が参加

呼び声高い御影工、尼崎北

正月の全国高校選手権への出場チームを決める53年度兵庫県高校選手権大会は、史上最高の131校が参加して、いよいよ10月28日から開幕する。これに先立ち10月5日、組み合わせ抽選会が神戸市灘区の神戸高校で行われた。「131分の1」のきびしい兵庫代表の座に挑戦する選手の顔には、晴れの舞台への闘志がみなぎった。

大会は10月28日から11月23日までの10日間、六甲、兵庫工など県下の高校グラウンドと神戸中央球技場で、130試合にも及ぶ熱いドラマが繰り広げられる。

晴れ舞台へ闘志



優勝候補の一番手は御影工だ。昨年、念願の初優勝をとげた御影工は、心理的に追われる立場だが、夏の総体で敗れたのが薬となって勝負に対する選手の自覚が高まり、連覇をねらっている。国体の少年チームに6人を送り、攻守のバランスは出場校の中でNo.1だろう。ただ、一北監督を含めて主力選手の大半が国体に出場するため、大会前の練習が消化できずチームプレーに一本の不安が残る。

これに続くのは尼崎北、県尼崎工あたりか。総体で兵庫代表となり、例年だと進学準備のため秋口から退部する3年生がそっくり残っているから、今年は強そう。主将の中根、FW田口、赤松らの攻撃力は御影工をしのぐが、守備のもろさから試合を失うことがあった。全国総体でベスト16入りを果たし、自信をつけているだけに、初優勝の可能性も十分だ。県尼崎工は兵庫県総体の決勝で尼崎北に苦杯を喫したが、個々の選手の力では定評があり御影工、尼崎北に一步も劣らない。

ダークホースは神戸。一昨年より小粒になって得点力は落ちたが、バックの守りはGK新谷を中心にかたく、長岡・新監督のサッカーが浸透しつつあり、選手の自覚はトップクラスだと高い評価を受けている。

このほかでは、GK松本の守備力と2年生の成長が著しい西宮東、吉田が攻守にわたってチームを引っ張る三原、それに須磨、志知ら実力校の活躍に興味もたれる。初出場チームも「力いっぱいぶつかると」意欲満々。新顔の心意気をみせてくれそう。

なお、兵庫県大会の決勝戦は11月23日午後0時から、神戸市兵庫区の神戸中央球技場（別図参照）で行われるが、スタンドを埋める観

客も年ごとに倍増しており、話題の豊富な今回はさらに盛大な大会となりそうだ。

兵庫高校選手権

全国高等学校選手権、いわゆる正月大会の予選を兼ねて行われるもので、日本協会第2種の統一大会が開催されていない現時点において、最大の規模を誇る。

大正7年、自由参加の第1回大会が開かれた。それが大正15年に全国予選制がとられ、40回を数えた昭和37年には予選参加チームは800を超えた。41年度に全国総合体育大会が実施されたことにより、総体上位2校、国体の上位2校と、別に地区代表決定戦によるチームを合わせ、16校が出場する形式がとられた。しかし、46年度から総体の成績に関係なく、この大会のための予選が復活され、兵庫県は単独1校の出場が認められた。

最近10年の決勝戦の足跡

第47回	昭和43年度	関 学	1-0	県芦屋
48	44	西宮東	1-0	御影工
49	45	報 徳	4-3	西宮東
50	46	報 徳	3-1	県芦屋
51	47	神 戸	2-1	西宮東
52	48	神 戸	2-0	市尼崎
53	49	報 徳	1-0	尼崎西
54	50	神 戸	3-0	県尼崎
55	51	神 戸	2-0	吉 崎
56	52	御影工	4-1	明石南
57	53			



記念写真におさまる清水選抜チーム。後列右から5人目が八木選手。左端は堀田団長

